

挑戦の歩み

一別府の誇りと未来を拓く

ながのやすひろ
別府市長(大分県) 長野恭紘



原点にあるもの

別府市は九州の北東部、大分県の東海岸に位置し、由布・鶴見岳の麓から別府湾へと広がる自然豊かなまちです。市内には別府八湯と呼ばれる温泉地が点在し、豊富な湧出量を誇る温泉と立ち上る湯煙は、本市を象徴する風景として親しまれてきました。古くから湯治文化が息づき、多くの人々に癒やしと活力を与えてきた、歴史と文化にあふれる国際観光温泉文化都市です。

その別府の地で、昭和50年、私は3800gの大きな赤ん坊として生まれました。幼い頃は三度がさかぶり、「ゲッドモーンニング！」と近所に叫びながら歩くなど、少しユニークな子どもだったようです。祖母の家の屋上から落ちたり、池に落ちたりと危ない経験もありましたが、不思議と大事には至らず、多くのご縁に支えられてここまで歩んできたと感じています。

少年時代は野球と新聞配達に明け暮れました。夕方の配達を終えると、そのままグラウンドへ向かう毎日です。雨の日も雪の日も休めない配達を通じて責任感を学び、地域の方々に温かく支えられながら、人とのつながりの大切さを実感しました。また、毎日決まった時間に届け



鉄輪の湯けむり

るという「当たり前」の積み重ねの中で、仕事の重みや信頼の大切さを自然と学んだように思います。こうした経験が、どんな仕事であっても責任を持ってやり遂げるという姿勢につながっていると感じています。

仲間と挑戦の日々

中学・高校でも野球に打ち込み、生徒会長やキャプテンとして仲間を率いる経験を重ねました。仲間に恵まれ、市内大会での優勝など成果もありましたが、甲

子園出場という大きな目標はかなわず、悔しさも味わいました。それでも、仲間と共に目標に向かって努力した時間そのものが、かけがえのない財産になっています。

高校では体育委員長として体育祭の企画にも挑戦しました。「どうすれば皆が楽しめるか」「どうすれば心に残る行事になるか」を考え抜き、仲間と共に形にしている中で、「人をワクワクさせたい」という思いが芽生えました。この経験は、後のまちづくりにもつながっていると感じています。

大学に進学後も野球部で競技を続けましたが、肩の故障により競技生活に区切りをつけました。大きな転機ではありましたが、その後訪れたヨーロッパで、歴史や文化が日常に溶け込む姿に触れ、「人が誇りを持つてるまちをつくりたい」という思いが強くなるに刻まれました。この体験が、政治の道を志すきっかけとなりました。

未来への挑戦

政治の道は決して平坦ではありませんでした。市長選挙での落選を経験しましたが、その悔しさが志をより確かなものにしてくれたと感じています。平成27年、40歳で別府市長に就任し、座右の銘「やりすぎぐらいがちょうどいい」を胸に、前例にとられない挑戦を続けています。「湯く園



100年後に残したい別府の風景

容」・「健康」の視点に
るため、「医療」・「美
い形で継承・発展させ
化を現代にふさわし
ります。この貴重な文
てきた湯治文化があ
人々の心身を癒やし

本市には、古くから
人々の心身を癒やし
てきた湯治文化があ
ります。この貴重な文
化を現代にふさわし
い形で継承・発展させ
るため、「医療」・「美
容」・「健康」の視点に

身体が気持ちいい
なあ、精神的にいい
なあとと思うことです。
しかし、温泉が具体
的にどう心身の健康
に作用するか、証明で
きる人はいません。理
由は科学的にしっか
り調べたデータが存
在しないからです。

地」の実現をはじめ、市民の誇りと本市の
魅力発信に取り組んできました。
令和6年は市制100周年という大き
な節目を迎え、新たな一歩を踏み出す年
でもありました。現在、私が特に力を入
れているのが、「新湯治・ウェルネス」の
取り組みです。
「湯治」は、温泉を活用して心身の健康
を整えるものとして、広く知られていま
す。一方で「ウェルネス」は、温泉入浴の
効果を感じながら、おいしい食事や運動
などを通じて、自分の

科学的根拠を取り入れた、新たな滞
在型観光へとつなげていきたいと考
えています。

温泉に入るだけでなく、温泉の効
能を見える化し、食や運動、自然体
験、文化体験と組み合わせることで、
「ここでしか味わえない体験価値」を
提供していくことを目指していま
す。モノを消費する時代から、心に
残る体験へと価値が移り変わる中
で、本市ならではの魅力をさらに高
める挑戦でもあります。

また、本市の平均宿泊日数は依然
として短く、長期滞在の促進は大き
な課題です。この課題に対し、「新湯
治・ウェルネス」を軸とした滞在型観
光を推進するとともに、温泉施設や
旅館・ホテル、飲食店、大学、研究
機関と連携しながら、地域全体で価
値を高め、経済効果を市全域へ波及させ
ていくことを目指しています。訪れる方々
が安心して快適に滞在できる受け入れ環
境の整備にも力を入れ、選ばれ続ける観
光地づくりを進めてまいります。

こうした取り組みを持続的なものとす
るためには、地域に根差した人材の育成
と、事業を支える仕組みづくりが不可欠
であると考えています。温泉という地域
資源を核に、産学官が連携しながら、新
たな価値を創出し続けることで、本市全



「こもれびパーク・別府市立図書館」令和8年3月28日開館

体の魅力を少しずつ高めていきたいと考
えています。その積み重ねこそが、将来
にわたり選ばれるまちにつながると信じ
ています。

「新湯治・ウェルネス」というブランド
を本市で確立し、次の100年を支える
新たな力へと育ててまいります。市民の
皆さまにも、訪れる方々にも、「ワクワク、
ドキドキ、感動するまち」と感じていた
けるよう、これからも一歩一歩、挑戦を
続けていきます。